

## 第8回 あいちロボット産業クラスター推進協議会委員会議事録

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、書面にて委員会を開催することとし、各委員へ資料を配布して、意見を募った。委員からの意見は、以下のとおり。

### 1 資料

『2020年度の実績及び2021年度の計画について』

### 2 委員からの意見（回答があったもののみ）

#### ①中部大学 工学部ロボット理工学科教授 梅崎太造委員

- ・前回のときも発言したが、大企業はともかく、多くの中小企業が事業にAI技術を組み込んだロボットシステムを取り入れたいというニーズは年々増加している。

しかしながら、担当できる技術者がいないということで実際には導入できない企業が多い。充実したAI教育のカリキュラムや能力検定システムを持つ財団も最近ではいくつか設立されているが、そのほとんどは東京、関西地区に集中しており、愛知地区では遅れている。やはり、県や市の公共施設として他県に例のない、独自の教育機関を大学及び企業と連携していち早く設立すべきと考える。

大学が得意とするところ、企業が得意とするところの事例を多く作成し、後続の企業の参考となる、わかりやすく短時間で取り組み可能なシステム作りが重要であると思う。

#### ②株式会社スター精機 代表取締役社長 塩谷國明委員

- ・「あいちロボット産業クラスター推進協議会」は平成26年より開催されているが、協議会の運営期間としては何年度まで継続するのか。事業目的達成期限を明確にして推進すべきと思う。

以上